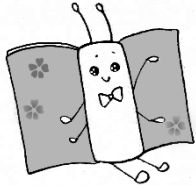


平成30年11月15日発行



図書だより 11月号

龍北図書室キャラクター
ほんちょう

兵庫県立龍野北高等学校図書委員会

図書室の利用について

【開室時間】★平常時★

- 平日…昼休み 12時50分～13時10分
放課後 15時30分～17時貸出 16:30
- 1人3冊まで借りることができます。
- 貸出期間は2週間です。

【移動図書デー】

毎週火曜日・木曜日の昼休みに移動図書室を
アカデミックストリート2階北側で実施し
ています。

おめでとう！夏休み読書感想文入賞

優秀賞 2年5組 伊藤陽介さん 佳作 2年6組岩本 真菜さん
「楽しむことの大切さ」 「君の脾臓を食べたい」



裏面に優秀賞
の感想文全文
を掲載してい
ます。
12月21日に右
の映画会を図書
室でします。



図書委員のイチオシの本紹介



『図書館戦争』 有川 浩

この本は、公序良俗を乱し、人権を侵害する表現を取り締まる法律として「メディア良化法」が施行される時代と、突飛な設定すぎるところもありますが、面白く読み始めるとすらすら読める、読みやすい本となっています。漫画やアニメ、さらには映画化までされており、普段小説を読まない人も楽しめる本ですので、皆さんも一度読んでみてください。

【図書所在番号 913-ア】
1年1組 南坂 柊汰



『おおかみ子どもの雨と雪』 細田 守

この本は、私たちより年齢が低く幼い雨と雪の2人が将来、人間として生きるのか、狼として生きるのか自分自身で選択する物語です。ちょうど私がこの本を読んでいたときに進路について悩んでいました。自分よりも幼いのに、人生に対して真剣に考えて、自分自身で選択し、強い意志と覚悟をもっていて、私もすごく励まされ、進路について前向きに考えることができました。皆さんもぜひ、読んでみてください。

【図書所在番号 913-ホ】
3年3組 池田 依水



平成 30 年度第 64 回青少年読書感想文兵庫県コンクール

播磨西 高校支部 優秀賞受賞作品の紹介

優秀賞 2年5組 伊藤陽介さん

題名：「楽しむことの大切さ」

書名：キケン 成南電気工科大学機械制御研究部

著者：有川 浩



この年になると毎日楽しくいきるといよりも「いかに楽をして生きるか」ということを考えがちになってきました。私の普段の行動は、朝6時頃に起床し、身支度を整えているうちに7時になり家を出発して最寄りの駅に向かいます。40分程かけて学校に到着してからは1～6時間目まで授業を受け、ホームルームを終えると4時頃です。放課後は中学校から続けているバスケットボールに打ち込み、全てが終わると7時過ぎです。疲れ果て家に帰り、リラックスしているうちに10時をまわります。

このようなスケジュールを毎日こなしているうちに1日1日の重みがなくなり、作業のような日々になっていました。人生の中でたった3年間しかない高校生活がこんな日々ではもったいないと思います。しかしどうしても人間は楽な道を選んでしまうものです。楽な道をえらぶことによって私は次の日を迎えるための体力を少しでも得ることができると思います。

ここで私が今回夏休みの読書感想文のために読んだ「キケン」という作品に登場する「上野」という人物の性格について述べていきたいと思っています。

彼の名前は上野直也といい学校では「大学きっての危険人」と言われています。彼は何もしなければこのような名前と呼ばれることはないのですが、彼は大学でありえない行動や失敗を繰り返してきたため、この様に呼ばれるようになってしまいました。

普通に生活をしていれば、周りから笑われることも馬鹿にされることもないのですが、この本を読んでいるうちにそんな人生で良いのかと思ってしまいます。上野君は自分の好きなことを好きなだけ自由にやった結果、「危険人」と言われてしまいますが、彼はとても楽しそうです。楽しそうに生きている彼は僕から見れば、とても輝いて見えました。彼が輝くことで周りの人たちも徐々に楽しみ出

し、とても良い部活動になっていきました。私はそんな彼らがとても羨ましかったです。いつも周りの空気に合わせることに努力してきました。いかに人と同じようにふるまい、人と関わらず人に注目されずに生きていけるかと。最近の日本人は、この様な人が多いと思います。「集団行動」がまさにそれを分かりやすく具現化したものだと思います。もっと日本人は個性を出していくべきだと思います。人と違った意見が駄目だということは無いと思います。多数派が正しいというわけでは無いと思います。

つまり、周りの為だけに生きていけば周りは得するかもしれませんが、自分はどうか？ということです。周りの為に生きるという考え方を全否定するつもりはありませんが、自分の人生なのだから自分が主役でも悪くないはずです。「楽しむこと」で上野君は結果的に幸せになることができました。

チャレンジしなければそれなりの成果が得られる場合でチャレンジするかしないかは人それぞれです。しかし、一度きりの人生をそこそこで終えたくない今の自分は思います。生きていられるのならそれなりのつめあとを残してきたいです。

上野君の生き方は私とは反対だったのでとても興味をひかれました。遊び半分ではなく真剣に部室のかべをこわしたり、文化祭で資金かせぎのために本格派のラーメンを作ったりなど馬鹿げていますが、私は羨ましい、楽しそうと思ってしまいました。

体と心がどれだけ疲れていようが楽しい方が良いと思います。

この本を読んだことで人生における価値観を大きく変えることができました。これが良いことなのか悪いことなのかはまだ分かりませんが選択肢を増やすことができたのは良いことだと思います。

今日学べたことが自分にとってプラスにしていければとても良いことだと思います。そしてそれをどれだけ吸収できるかは自分次第だと思います。

